



独立行政法人福祉医療機構  
社会福祉振興助成事業

## 令和4年度WAM助成事業報告書

---

# 医療的ケア児とその家族が 輝いて生きていくための総合支援事業

大分県医療的ケア児者の親子サークルここから





# 目次

1. はじめに

2. 事業の背景・目的

3. 取り組み① 交流サロン運営事業

4. 取り組み② 支援者人材確保事業

5. 取り組み③ 医療的ケア児家族の就労支援事業

6. この事業を通じて広がる支援者・理解者たちの輪

7. 当団体の紹介

## はじめに

日頃より大分県医療的ケア児者の親子サークルここからの活動にご支援、ご協力いただき感謝申し上げます。

令和4年4月より独立行政法人福祉医療機構の「社会福祉振興助成事業」に採択を頂いて「医療的ケア児とその家族が輝いて生きていくための総合支援事業」を実施する運びとなりました。

本事業は、当団体約3年の活動してきたなかから、『医療的ケア児者と家族らのQOL向上を目指してわたしたちにできることを』との思いからうまれたものです。

わが子が人工呼吸器などを使用する医療的ケア児になったことがきっかけで始めた『大分県医療的ケア児者の親子サークルここから』。自分が感じてきた、医療依存度の高い子を在宅で守るプレッシャーや不安、他者交流の乏しい生活の孤独感、仕事も辞め社会から取り残された孤立感。医療的ケア児と家族等を支えるサービスやマンパワーが不足する中、それでもわが子を守るため、いろんな思いを抱えながら必死でケアと子育てを頑張ってきました。そして、当事者同士のコミュニティの場があれば、悩みや情報を共有・共感し励ましあえ、子育てがより楽しいものになるのではないかと、また、当事者の生の声を社会に届けることで支援拡充が促進され、わが子もわたしたちももっとより良く生きていけるのではないだろうか、との思いで始めた当団体の活動。活動を続けていくにつれ、『どんなこどもであっても輝くいのち、守って育てていきたい』子を思う気持ちと、『自分たちと同じ経験をしないように』『自分たちの経験をほかの方のために活かしてほしい』親の他者貢献への気持ちがより強まり、本事業の計画・実施に至りました。

事業運営に関しては経験も浅く、大変未熟なわたしたちでありましたが、つつがなく実施できましたのは、みなさまからのご支援・ご協力の賜物と、スタッフ一同こころより感謝申し上げます。

本冊子にて「医療的ケア児とその家族が輝いて生きていくための総合支援事業」の事業活動報告をいたします。本事業の結果から今後のビジョンを明らかにし、今後も継続的に効果的な団体活動となるように振り返りました。ご拝読賜れたら幸いです。

今後とも、当団体活動へのかかわらぬご理解とご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

大分県医療的ケア児者の親子サークルここから

代表 安藤 歩





取り組み①

# 交流サロン 『集いの場 医ケアカフェ ここから』

医療的ケア児を持つ親（当事者）と看護師など（支援者）のスタッフで運営しました。当事者同士談話をしたり、これから医療的ケア児子育て・在宅生活を始める方々の相談や経験者ならではの知恵知識などの情報交換・交流の場、イベントやワークショップなど企画し、体験や遊びの場、制度や支援のあり方などを学ぶ場、当事者と支援者らをつなぎ、相互理解を深め課題を共有、支援拡充を目指す場として開設しました。

大分県医療的ケア児者の親子サークルここから

医療的ケア児者から  
ひろがる世界

## 集いの場 医ケアサロン ここから

いつでもここに

医療的ケア児者と親と医療的ケア児者サポーターで運営  
交流の場、相談の場、情報の場  
当事者&家族たちを地域とつなぐ場として開設します  
お気軽にお越しください♪

開設日時、場所の確認は下記連絡先  
もしくは、Instagram・Facebookで

TEL 090-7164-9751  
メール i.care.oita.cococolor@gmail.com

山形助成

（利用対象者）

医療的ケア児者とその家族を主とし、行政や事業所など支援者ら、地域住民の方々などの利用も可

（開所日時）

主に、火曜・水曜・木曜 11時～15時に開所

（開所場所）

大分県身体障害者福祉センター

あすぴあおおいた各部屋

大分市コンパルホール2階 たぴねす会議室

（大分市男女共同参画センター）

大分市内公民館（明治明野・鶴崎・大在）

レンタルスペース

モデルハウスSARADAホーム

明野住宅展示場内ナカノスホーム

大分市敷戸 コミュニティカフェ大きな樹 他

（開所にあたり配慮した点）

■新型コロナウイルス感染予防対策として

- ・スタッフや利用者・講師の体調チェック（体温測定、問診）
- ・利用人数の調整（時間差利用など大人数での利用を避ける）・こまめな換気・手指消毒  
マスク着用の徹底・使用物品の消毒・オンラインの活用
- ・飲食は必要最低限にとどめる

■サロン会場には、バリアフリーであること、駐車場完備を第一に考え、だれでも気軽に利用しやすい場所の選択をした。

■利用者のプライバシーの保護に努めた。事前利用申し込みの際、相談内容によっては貸し切りとし、利用者の気持ちに配慮した対応を心掛けた。

■肢体不自由があったりや体温調整が苦手な子が多い医療的ケア児者らの特性を考慮したサロン場の環境整備に努めた。

■対面だけでなく、オンライン交流会・電話相談・SNSによるLIVE配信なども利用し、いろんな交流の形をはかった。



## 実績

サロン開設日数：合計71回

利用延べ人数：152名（リピーター込）

30代～60代以上の男女

利用者の居住地：大分市・別府市・臼杵市・中津市

サロンでの企画内容（イベントやワークショップなど）

- ・アルコールインクアート体験会
- ・UVレジンワークショップ
- ・アイシングクッキーワークショップ
- ・音楽療法士による音楽療法&クリスタルボール演奏
- ・森林セラピー体験
- ・Maririn Flower ワークショップ
- ・TSUNAGU ～つなぐ～

多種多様な生き方をつなぐ、秋の大交流会！

- ・オリジナルしめ縄をつくろう
- ・ここからクリスマス会  
～星つむぎの村によるドームプラネタリウム～
- ・「医療的ケア児者を知っていますか？」当事者家族を交えた座談会

医療的ケア児者と家族等 26名  
行政機関から 9名  
医療・福祉・教育機関 15名  
NPO法人・任意団体など 10名  
地域の方々 25名  
大分市議会議員 2名

## サロン運営を振り返って

サロン開設初日からこれから在宅生活を始める当事者家族からの相談連絡が入り、当事者だからこそできる支援があることを実感しました。医療的ケア児との生活は、わからないことが多く、不安や心配が募ります。そんな経験をしてきた先輩ママたちが交流サロンにおいて経験者の知恵知識を伝えることで、不安や心配の解消ができ、これからの子育てを前向きにとらえる、進められるきっかけになれると思います。そんな‘ピアサポーター’としての役割と必要性を見出すことができました。

交流サロンで聞かれた当事者や当事者家族の声からは、いま直面している当事者、家族の問題や課題、必要としている社会資源は何か、などの把握ができました。そして、行政（県障害福祉課・医療的ケア児支援センター）や各支援団体へ働きかけるきっかけとなりました。

交流サロン利用者を限定しないことで、医療的ケア児者支援に関心のある方々の利用もあり、当事者とその家族等の現状・悩み・支援してほしいことなどをお伝えすることができ、サロンをきっかけに医療的ケア児者支援拡充もはかることができました。

障がいの枠を超えた大交流会の開催や、ドームプラネタリウムなど、なかなか経験し得ないイベントを企画、体験することは、医療的ケア児者と家族たちへ楽しさと、いろんな立場の方々と交流する機会を提供できました。多種多様な方々と交流することで、お互いに配慮する部分がより理解できたり、それぞれに抱える課題問題など知りえることもできました。また、運営に多くの団体支援が得られることで、当事者の運営負担も軽減され、運営スタッフも一緒に楽しむことができました。





## サロン利用者からの声～アンケート調査より～

すべての方が、

『交流サロンを利用してよかった』との回答でした。

### アンケートの感想を一部紹介

- ・おしゃべりと珍しいワークショップに気分転換と新しいことを知る楽しさがあった。
- ・とても話しやすかった。
- ・本当にここからです。孫ももうすぐ帰れる。だから来ました。また、たくさん聞きたい、見たいです。ありがとうございました。
- ・実際の困りや生活など具体的にお話しただけで、とてもありがたかったです。
- ・今年度に入って「医療的ケア児」のことを知りました。以前、サークル活動も見学させていただきましたが、今回具体的なことを映像と講演で聞いてとても良かったです。なかなか知る機会は少ないかもしれませんが、災害のことなど考えると知ってもらふ必要のあることだと強く感じました。
- ・かかわる中で、ご家族のお気持ちを知ることがとても重要だと思うので、とてもいい機会を頂きました。
- ・うちの子にもケアが必要なおともだちがいることをしてほしいし、何か一つでも優しい声かけ、気遣いができる子になってほしい。





## 運営スタッフからの感想

若杉 真紀子 さん

先天性心疾患児で24時間在宅酸素療法中の  
8歳になる息子の母



今回、なぜスタッフを試してみたかという、私自身も色々な方からのアドバイスのおかげで何とか今までやって来れました。その経験から、『次は私の経験したことが他の方の参考になれば嬉しいな』と思い、スタッフをさせていただきました。

スタッフ運営にたずさわって、よかったこと、うれしかったことは、スタッフと言いながらも私自身も相談させてもらったり話を聞いてもらい、とても助けていただきました。一人じゃないんだ、と感じることができ、とてもうれしかったです。大変だったこと、しんどかったことってというのは全く感じませんでした。

先天性心疾患の子を育ててきて、病気は違えど、医療的ケア児子育てをしている同士、共感できる部分は多少なりともあると思います。現在、医療的ケアは酸素吸入のみとなり、ケア自体は軽いですが、先天性心疾患の中では最重度と言われている病気を持って生まれてきた息子です。息子が今の状態で少しでも長くいてくれたらと親として願っています。そして、そんな息子が誰かの希望になれば嬉しい限りです。

『集いの場医ケアサロンここから』に行けば、自分の悩みを話せる、知りたいことを聞ける、このサロンの存在はきっと大きいと思います。

昨年の春にここからさんと出会い、最初に言われた言葉を今でも覚えています。『酸素だけって言うけど医療的ケア児の子には変わらないよ、仲間だよ』という言葉に、私はとても救われました。一人でも多く医療的ケア児を育てているお母さんやお父さん、ご家族の気持ちが救われますように…そして一人でも多くの方に医療的ケア児を知ってもらえたらと思っています。

大変意義ある交流サロン事業でした。  
サロンという開かれた場を持つ意味と、  
当事者自身が社会に働きかけることの重要性をととも感じました。  
今後も活動を継続していくためには、  
「運営力」を生み出すかこと、向上させていくことが大きな課題です。  
一人一人のスキルの向上、チームの能力向上を目指すとともに、  
今回の事業展開でできた行政や他団体との連携をより強化していき、  
より良い活動展開ができるよう、努めていきたいと思っています。





## 取り組み②

## 支援者人材確保事業

医療的ケア児と家族等を支援する医療・福祉・教育・行政・地域との連携を深め、交流会や研修会を実施することで支援者を増加させ、人材の確保と質の向上を図る目的で活動しました。

### 実績 延べ人数：1000名以上

- ・写真展来場者 450名（推定）・交流サロンでの講習会 25名
- ・映画上映会と意見交換会 110名
- ・医療ソーシャルワーカー 26名 ・県立支援学校教員 145名
- ・准看護学生 56名 ・大学生 100名 ・保育士 3名
- ・行政（大分県障害福祉課、保健師、児童相談員、難病支援員等）9名
- ・大分市議会議員 3名 ・他団体での講習会 85名

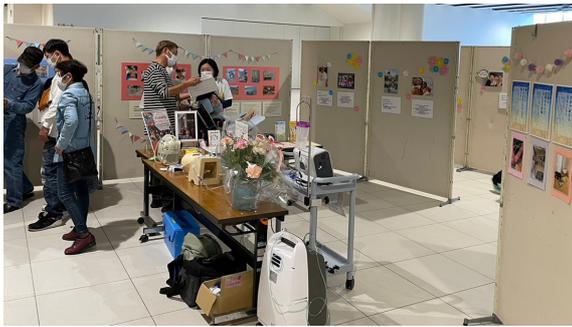
交流サロンを利用した一般市民へ向けた講習会	8日
障がい児者写真展「医療ケアが必要な僕・わたしの日常」 開催と各所での写真展示開催（現在継続中）	45日
ドキュメンタリー映画「普通に死ぬ～いのちの自立～」 上映会と支援者らとの意見交換会	8日
他団体などから講師依頼や相談を受けた講演会	3日
イベント参加にて一般市民などへ向けたもの	2日
行政や医療機関など支援機関との交流意見交換会	4日
メディア取材、新聞など掲載	4社
教育機関での講義・講演	3校





障がい児者写真展は、大分市中心部の交通の便もよく、人が多く行き交う場所にて開催できたこと、その後もいろんな場所で写真展示を継続できていることは、より多くに一般市民へ向けて医療的ケア児を知っていただける機会となりました。

～ 開催中の様子 ～




～ 御来場様アンケートの一部 ～

ケアの事をまず知ってもらおうと言う主旨では、この様に写真で知ってもらい伝えるにはいい企画だと思います。どの子にも当たり前の日常や生活の様子を見ることができて良かったです。あるある川柳、これは心に残りました。「ランドセル背負えなくても売り場見る」心に残りました。

とても意義のあるイベントだと思います。これをきっかけに沢山の親や、子どもたちが繋がったり、心落ち着けたりするきっかけになればと心から願います。関わった皆さん。24時間力を尽くされる御家族の皆さん。お子さんたちすべてが明日も穏やかな1日でありますことを祈っています。どの子も本当に可愛いですね。

医ケアがあっても病気があっても毎日の生活や成長があり、幸せそうに暮らしている子どもたちの様子がわかりました。また、家族の方も大変ながら愛情を注ぎ、子どもさんへの成長を喜び、医ケアがない子と同様に育児を頑張り、楽しみ暮らす様子がわかり、とても良い写真展でした。

まずは知ることからと思ってきました。皆一生懸命自分らしく生きていて素晴らしいと思います。支える家族の方の色々な思いを知ることができました。

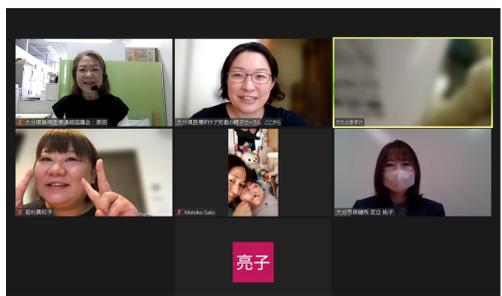
写真の中の笑顔と川柳から保護者のケアの毎日の様子が伺えました。公園等ハード面も過ごしやすくなるなり、外出をして経験が増え、さらに笑顔が増える社会になって欲しい。

本当に在宅で医療を毎日行っているのを目にすると、私たち施設の看護師が限られた時間で向き合うのとは大きく違い、24時間その子と向き合う保護者さんには、本当に尊敬と、いつまでも及ばないと心から思いました。明日からの仕事の中で、今日の思いを忘れることなく大切に1人1人と関わっていきたいと思います。

医療系の学校に通っていて、色々な病気について勉強していて気になっていたり、写真や文章などを見て、病気などで大変なはずなのに笑顔だったので、すごいと思いました。このイベントを通して、もっと勉強を頑張りたいと思いました。病気の子たちに負けないように笑顔で過ごせるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

皆様の笑顔がとても素敵でした。知らないことが多くありました。子どもたちが楽しいと思えることが増えて広がって欲しいと思います。何をしたいとか、もっともっと声を聞きたいと思っています。

ホームページ開設やSNSフル活用した発信を継続することで、SNSのフォロワーも増え、そこからの繋がりから講演会講師依頼が増えました。他団体との連携が生まれ、たくさんの方々に医療的ケア児を知っていただく機会をつくっていただきました。



大分県医療的ケア児者の親子サークルここから 主催

## 医療的ケア児者を知っていますか？

医療機器・医療ケアを必要とする医療的ケア児者たち。彼らが地域で生きていくために知ってほしいことをお話しします。お気軽にご参加ください。

**7月19日 (水) 10:30~12:00**  
**明治明野公民館 視聴覚室**  
 内容 ①「眠り姫」DVD鑑賞 約21分  
 日本文理大学情報メディア学科学学生作品  
 ②当事者母から伝えたいこと  
 ここから代表 安藤 歩

お問合せ・参加申込 担当 安藤  
 090-7164-9751  
 @care.oita.cocolor@gmail.com  
 Facebook、Instagramメッセージ  
 ご連絡お待ちしております。

眠り姫  
 大分県医療的ケア児者の親子サークルここからは  
 大分県男女共同参画推進センターです



この事業を通じて、医療的ケア児者とその家族についての周知を図れました。事業期間内に新規事業所開設あり、また写真展を通じて知り合った事業所が新規開設に向けて動き出してくれました。当事者から社会に発信していくことの効果と重要性を感じました。今後も活動を継続し、当事者らの居場所の確保と選択肢を拡げられるよう努めます。反省としましては、大分市を中心に活動をしてきたため、大分市以外の支援者との交流機会が少なかった事。地域格差がある現状への働きかけ・改善にむけての活動は弱かった事。これらは今後の課題としていきます。







# この事業を通じて広がる 支援者・理解者たちの輪

## 地域共生社会の 実現に向けて

社会医療法人 関愛会  
本部顧問 鯉越英夫さま

「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が令和3年6月18日に交付され令和3年9月18日から施行された。政府はその目的を達成するために法制上又は財政上の措置を講じなければならないことになった。医療的ケア児の特性に配慮し、総合的に支援体制を行うには医療、保健、福祉、教育、労働に関する行政の関係諸機関と情報の共有を行い民間相互の緊密な連携を取らなければならない。そのためには国民の理解を得ながら様々な手法を用いて広報と啓発活動を行う必要がある。今回「大分県医療的ケア児者の親子サークル ここから」代表の安藤様よりご案内をいただきドキュメンタリー映画「普通に死ぬ～いのちの自立」貞末監督とのオンライン交流会に坂ノ市病院「きらりん」の川野部長と参加して討論会を行いました。また安藤代表とは常々メールなどのやりとりをして県などにも大分県の高橋教育委員と医療的ケア児の保護者全員への学校での行事などの情報共有ができるよう要望に行かせていただいたりしています。

その中で感じた事を書かせていただきますと、

- 1、関係諸機関と保護者の連携がまだ取れていない。
- 2、保護者の負担が大きく減ったとは思えない。
- 3、経済的支援が十分でない
- 4、「全ての子供がど真ん中の平等な政策」とはいえない。
- 5、地域での理解が進んでいない。

これらの課題をどう解決していくかであるが、自治体任せにしない事である。

例えば「医療的ケア児支援センター」についてもその「活動状況の課題」「他県の状況調査」「国によるマニュアル作成」などをやるべきだと考える。

憲法で保障されている「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の基本原則を守るのは当然のことながら、憲法11条の「基本的人権」、13条「生存権」14条「平等権」25条「生存権と生活保障」などから考えると、地域格差、経済格差、教育格差、生活格差は当然なくすべきものである。東京都では医療的ケア児が学校行事で見学旅行等に出かける場合は保護者への交通費などの補助を行うが財政状況の厳しい地方自治体ではできてない。最低賃金も全国一律ではない。それらが原因で医療的ケア児や家族が生きづらい社会環境を作ってはいけない。そんな中で地方創生や少子化や子育て支援は行えないはずである。枝葉のことより根や幹をしっかりしていかなければ社会的弱者は相変わらず取り残されたままである。地域共生社会の実現は自助に頼るのではなく、互助、共助、公助が機能して初めて成り立つものであると医療的ケア児に関わる医療法人の職員として思う。



## 医療的ケア児者 親子サークル ここからに出会って

NPO法人  
自立支援センターおおいだ  
五反田法行さま



## ○はじめに

私はNPO法人自立支援センターおおいたで障がい当事者として勤務しています。

私の障がいは頸髄損傷です。当センター業務の中で相談対応も行うことがあり、いろいろな方の対応する中で他障害の事がうまく答えられなかったり、紹介するにも繋がりがあまりなく、これまで障がいのある人（頸髄損傷、視覚障がい者、精神障害者）との関りが限られていたこともあったので、上記の経験より他障害の当事者や団体との横の繋がりを作ることが出来ないかと思っていました。その際に市役所で医療的ケア児者ここからのチラシを見つけました。それから医療的ケア児者ここからの人と繋がる事が出来て、映画上映にも参加させて頂き、いろいろな事を学ぶことが出来ました。

## ○映画上映について

日時：令和4年11月25日（金） 場所：別府大学

感想：今回「普通に死ぬ」という映画上映に参加させて頂きました。

率直にこれが現実なのかと衝撃を受けました。

親の思い、子供の思い、家族の思い、支援者の思い、いろいろな視点から考えさせられ、住みみなれた地域で暮らしていく、そして死んでいくというのは当たり前ではなく、また、親と一緒にいる事も当たり前ではない事「親亡きあと」どうするのかという問題は親が生きているうちからも継続し、課題を解決しておかないといけないことがよく分かりました。このドキュメンタリー映画をより多くの方に見てもらいたいなと感じました。

## ○最後に

これまで医療的ケア児の方と接する機会があまりなくて、支援学校で見かける程度でした。ここからの活動に参加しようとしていた時にコロナ感染の影響を受けて、なかなか思うように活動に参加出来なかったため、今後医療的ケア児者ここからの活動に参加していきたいと思っております。また一緒に活動できる事があればぜひ連携していきながら出来ないかとも思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

## 互いの魅力を活かす パートナーシップを 目指して

特定非営利活動法人地域ひとネット  
代表理事 谷川 真奈美さま



私たちは、人と人との関わりの中で生きており、人との関係がうまくいかないときに疎外感や生きにくさを覚えて悩んだり軋轢が生じたりします。多くの方が「生きにくさ」を感じる社会にあって、みんな「ありのままの自分として生きる」ことを求めています。

当団体は、年齢や性別、障がいの有無や国籍の違いなどの垣根を越えて、コミュニケーションを促進し、「支えあって一緒に生きていく」社会をつくっていくことをビジョンとしています。

活動として、「地域づくり人づくり事業」、「中間支援事業」、「要配慮者支援事業」を行っています。その一つの柱である「要配慮者支援活動」は、災害時に避難所に行きづらい方々を対象に、日頃からのステークホルダーづくり、災害時に届きにくい声を支援団体に「情報を届ける」活動です。「おおいた・いとでんわプロジェクト」として災害時などにサポートが必要な方のニーズを平常時から吸い上げ「命を守る一つの選択」としての、バリアフリーホテル情報提供、物資、支援内容の事前登録などを行っています。

「医療的ケア児者親子サークルここから」さんとは、3年前から取り組んでいるプロジェクトがきっかけとなりご縁が始まりました。「家で子育てをしているだけなんですよ」と笑顔で話す代表の顔は、とても印象的でした。会員の方から「日常には様々な行動があります。





## 「大分県医療的ケア児者 親子サークルここから」 と関わって

(株)大分放送 報道部  
記者 井口 尚子

©OBS



2021年に医療的ケア児支援法が施行されたこともあり、行政などでは医療的ケア児を支援するための仕組みづくりが進められています。

私たちマスコミも医療的ケア児をテーマにした記事を扱う機会が増えてきました。ただ、医療的ケア児＝「日常的に医療的ケアを必要しながら自宅で暮らす子どもたち」という言葉の意味は理解していても、日常の生活がどうなっているのか？誰が支えているのか？どんな支援が足りないのか？など、実態は想像することもできませんでした。

取材がご縁で親子サークル「ここから」と関わるようになり、大分県内でも多くの医療的ケア児が暮らしていることを知りました。逆に考えると、身近に暮らしているはずなのに、存在に気づく機会がなかったということになります。なぜでしょうか……。話を聞いてみると、数時間ごとのケアが必要であったり、医療機器のための電源確保が不可欠であったり、感染症の心配があったりと、気軽には外出できない実態があることを知りました。医療的ケア児やその家族は、身近なはずなのに見えない存在になっていたのです。

「ここから」では、SNSでの発信や交流会などを通じて、表に見えづらかったケア児を社会に知ってもらう地道な取り組みを進めています。一人一人の声は小さくても、当事者がタグを組むことで、目に見える塊となり、存在に光が当たるようになってきました。

「ここから」が企画した県内28家族の写真展では、日常を笑顔で過ごすケア児とその家族のにこやかな表情が写し出されていました。ある母親が「かわいそうな子として見てもらいたいのではなく、懸命に生きている姿を認めてほしい」と話していた言葉が印象的で、みなさん同じような思いを抱えているのだなと感じました。写真展を通じて、子どもたちは一人一人輝く大切な存在であることを伝えるきっかけになったと思います。

医療技術の進歩によって救える命が増え、今後も医療的ケア児は増えてくることが予想されています。私たちにとっても決して他人事ではなく、身近な人が当事者や家族となる可能性も十分にあります。医療的ケア児や家族に目を向け、優しい社会を作っていくことが、明日の私たちの暮らしの支えになり、力になると考えています。報道に携わる立場として、今後も微力ながら、実態を伝え声を届けていきたいと思っています。

『知ることから支援ははじまる』をモットーに、日常生活における困り事や、災害時などもしもの時の不安・心配事、などいろいろな方々に各団体さまへお伝えてしてきましたが、あわせて、私たちも各団体さまそれぞれの立場からの活動内容や課題を知りました。そして、『私たちにできることは？』と一緒に考え、議論していき、『それなら私にも力になれる！』と、各活動団体・個人の『できる』をつなげることで地域共生社会をつくっていくんだと実感しました。本事業に取り組んできたことで、改めて、理解と共感の輪を拡げ、つながりを強めていくことが、だれでもどこでも暮らし続けられる社会をつくっていくんだと考えます。人はひとりでは決して生きてはいけません。いろいろな立場の方々を知り尊重し合い、互いのしあわせや暮らしやすさを目指して、手を取り合って考え創造していくそんな活動を今後も継続していきたいと思っています。当団体へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。





ここからひろがりつながる

# 大分県医療的ケア児者の 親子サークル

## ここから

医療機器・医療ケアが欠かせない人たちがいます  
だれもが愛する人たちと一緒に過ごす  
だれもが遊んで学んで輝いて生きる  
幸せな気持ちで毎日を過ごせる社会をめざして

### 対象

医療ケアが必要な児者と

その家族

そんなメンバーを

サポートしてくださる

関係機関の皆様

### 活動内容

- 交流・イベント
- 情報交換
- 啓発・学び
- 生活改善に向けた周知と関係機関との連携を図る



I.CARE.OITA.COCOCOLOR

お問い合わせ：担当 安藤

TEL：090-7164-9751

メール：i.care.oita.cococolor@gmail.com



Instagram・Facebookにて  
情報発信中。ぜひご覧ください



OITA



独立行政法人 福祉医療機構  
令和4年度 「社会福祉振興助成事業」

## 連絡先

大分県医療的ケア児者の親子サークルここから  
〒870-0126 大分県大分市横尾3601-9  
<https://coco-color.hp.peraichi.com>    ✉ [i.care.oita.cococolor@gmail.com](mailto:i.care.oita.cococolor@gmail.com)